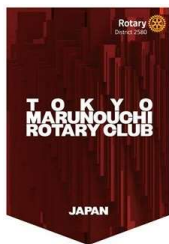


東京丸の内ロータリークラブ

2020年10月7日 第61回 例会式議事録



「笑おう---好奇心と実践---」
Laughter
-through Curiosity and Participation-
2020-21 年度 クラブ会長
嘉納英樹 Thurgood Kanoh



T O K Y O
MARUNOUCHI
ROTARY CLUB

“Rotary Opens Opportunities”

2020-21 国際ロータリー会長

ホルガー・クナー

「ロータリーは機会の扉を開く」

2020-21 第2580地区ガバナー 野生司義光



【式次第および議事録】

1. 司会進行 今井 菜美子 幹事
2. 開会点鐘 嘉納 英樹 会長
3. 四つのテスト 藪口 真太郎 会員
4. ゲスト・ビジター紹介 玉木 仁 直前副会長
・地区米山奨学委員会委員長
高橋 義一 様 (東京小石川 RC)
5. ニコニコ報告 鷺澤 充代 会計
①古山 真紀子 会長エレクト
②鷺澤 充代 会計
③尾崎 由比子 直前会長
④藪口 真太郎 会員
6. 会長報告 嘉納 英樹 会長
・入会式(吉田新入会員)
・10月お誕生日(藪口会員)
7. 幹事報告 今井 菜美子 幹事
・理事会報告 他
8. 出席報告 古山 真紀子 会長エレクト
・出席者:10名、欠席:0名
・出席率:100%
9. 卓話 【右参照】
10. 今後の予定 尾崎 由比子 直前会長
11. 閉会点鐘 嘉納 英樹 会長
12. 写真撮影 出席者全員

【卓話】

地区米山奨学委員会委員長

(東京小石川ロータリークラブ)

高橋 義一 様

「米山奨学事業活動について」

(以下、高橋様) ※別 PDF データあり

みなさんこんにちは。本日は10月の米山月間にお招きいただきまして、本当にありがとうございます。本日丸の内ロータリークラブに来ましたけども、格式の高い、大変お料理がおいしい。そしてなんといいまして、若さのエネルギーに満ち溢れていて、私のところも若い委員を連れて来た方がよかったなと思いますけども、精一杯お話をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

丸の内ロータリークラブ、我々資料を持っているのは奨学生を扱っているかということ、ご寄付をどのぐらいいただいているか、そういうことは調べられます。実はちょっと内緒で寄付を調べて参りました。去年、昨年度分6月までの集計ですが、全部で34万円いただいております。ここで、1番大事なのは1人平均のご寄付がいくらぐらいかというのが、我々の評価の対象になって参ります。丸の内は1人平均個人の寄付額が4万2500円。我々が目標としているのは各クラブ2万円です。丸の内の場合は倍を超えています。多すぎると言わず、ぜひ来年もお願いをしたいと思います。2580番地区で比較的3万円以上の地区を調べますと、麹町ロータリークラブが4万2166円。それから、東京クラブは比較的高く、3万3101円。荒川は、3万4465円。江北は、4万1765円。昨年に関しては丸の内ロータリークラブの2580地区で1番個人の寄付額が高かった第1位に輝いております。また、これまで奨学生をお預かりいただいてなかったので、今度は奨学生の実績をぜひ作っていただけたらと思います。

今回は、ロータリー米山記念事業の概要や今年の状況、来年のことを想定し、奨学生の受け入れはどうしたらよいのか、そのへんお話ししていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。(スライド)最新版の最初の部分を、タイトルですが、外国人留学生への奨学金。ロータリー米山記念奨学事業部となっています。これはどこが作成しているかと言うと、米山記念奨学会という公益法人、公益財団法人が行っております。これを各地区が請け、奨学事業を行うという形になっています。米山奨学事業が何かと言いますと、日本のロータリー独自の事業です。ロータリーは世界中ありますけれども、日本だ

けの事業。しかも、日本に34地区ありますが、これは歩調を合わせて同様の基準で選び、事業を行うようになっております。具体的には、日本で学ぶ外国人留学生を支援事業です。

特徴としては、まず大学入学前に日本語を勉強し、それから大学に入る。あるいはその前に日本語学校に行き、日本語の勉強をする。それから、大学に入る。それから奨学制度を応募するわけなので、かなり日本語はできます。学生によっては、すぐレスポンスが戻ってくるぐらいのレベルです。また、他に特徴として、単に奨学金をあげるだけじゃなくて、世話クラブ、クラブでお世話をするという点です。カウンセラーを1人決め、1年間面倒を見てもらう。そのような世話クラブカウンセラー制度というのが特徴です。

そもそも、米山記念事業の始まりですが、米山記念とありますから、米山梅吉が作ったのかと思いますけども、そうではなく、戦争で国際ロータリーから一時、日本のロータリーが入っていなかった時期があり、その時に米山梅吉は亡くなりました。日本のロータリーは、米山梅吉が第1回目の会長で、日本ロータリーの父と言われていますが、新しく日本のロータリーが復帰する前に亡くなられています。しばらくして、戦後、東京ロータリークラブ、において米山基金事業というものが始まりました。「“平和日本”これを世界へ。」ということで、日本の友人を増やして、平和を実践する人材を育てる。そして、世界各国で平和を実践してくれる若い人というような人材育成をしようじゃないかという、これが1つの柱であり、現在でもそれを繋いでおります。その後、1995年に全国組織になりました。

米山梅吉を、米山記念奨学会と言いますから、米山のことも少し紹介したいと思います。(スライド)ここにありますように、明治元年、静岡県で生まれまして、その後はアメリカに行き勉強しています。実は米山家ではなく、和田家というところで生まれた、後ほど米山家に養子に入っております。また、アメリカに行っても、大変素晴らしい方で明治30年の30歳頃、三井銀行に入られました。もうその頃の日本では有数の経済人になっていた。このような方でないと、ロータリーはできないだろうということで、初代のロータリーの会長となりました。(スライド)右の方に書いてありますが、米山梅吉氏というのはただ経済が素晴らしいのではなく、奉仕の心で社会を敬う。奉仕を大変大事にしております。実は大正9年に日本にロータリークラブを設立する前、大正3年の47歳の時に既に新隠居論というを出しております。これは、“みなさん、ずっと働いてきたと思いますけど、まあそろそろ隠居も考えなさい。隠居した時は自分の仕事の延長ではなくて、社会の奉仕。要するに公共事業の世話を、ぜひその経験から行ってください。”それを強く推し進めて提案しております。

実際に米山市が昭和9年、三井法案会ができた時、大病患者の慰問や病院設立。他にも結核療養所・研究所、病院の設立、農村、知育復旧活動など幅広く活動されています。このような経緯があり、奉仕の心で社会を開くという、意味も含めてこの名前がつけられております。

人数ですが、今年は34地区に883人入りました。今までの累計ですと、2万人ぐらい超えているぐらいの奨学生を誕生させております。昔は、中国、韓国、台湾でしたが、今は中国、ベトナム、韓国、マレーシアとか、やっぱり時代時代で少しずつ選ばれる人が変わってくるようになっていきます。ここに新規と継続っております。新規というのは新しく入った人です。基本的に1年間ですが、2年希望も可能です。2年の場合、継続生として2年間奨学金が受けられ、この人たちを継続生と呼んでいます。

当地区でも米山奨学生は40人おります。例会への参加だけでなく、地区、委員会の方もいろいろな企画をしまして、米山記念館に訪問も行いました。他にも、柿田川の自然保護活動など行っています。

今年の状況ですが、沖縄で2箇所、沖縄と東京2箇所で開催試験があります。沖縄の場合、4名の応募、2名予定採用

です。それから東京は80名の応募、で予定採用者が30名。沖縄では、50%の割合で採用、在京の方は残り28人ですから、厳しい競争率となっております。

試験の方法ですが、4人の選考委員(事前に打ち合わせ、オリエンテーションを受け、全国の共通基準で選考できるようにする)。受験生は4人1組で、その場でディスカッションのテーマが出されます。米山事業にこれまで行って奉仕活動は?などをテーマに4人でディスカッションをする。合格者は、ディスカッションでもずば抜けています。役割分担を決め、自己紹介など、いろいろな方法でみなさん取り掛かっています。その後は、個人面談を行います。

受験生は、まず大学から日本に来ていますから、子どもの時から日本を好きな方がほとんどです。そのため、母国で既に日本語の勉強している人もおりますし、わざわざ外国から来るわけですから、将来の目標が明確な人が多いです。

その後の受け入れに関してですが、40人ということは、40のクラブで面倒を見てもらうことになります。そうすると、1箇所にとどうしても固まってしまう。なぜかといいますと、どこのクラブに行くかというのを決める時には、どこの学校、どこに学校があるか、そこを考慮し決めます。また、例会に参加できる曜日を事前にアンケートを取り、クラブを決めております。中央分区分は16人(2020年度)。16クラブで11人いますから、5クラブしか入れません。そのため、中央分区分では多くのクラブが2、3年連続や4年連続で引き受けてもらっています。16年間の統計ですが、東京クラブ、江北クラブは16年連続。池袋は、16年中14年受け入れているという。やはり学校のある地域に近いところはどうしても選ばれているという傾向がありますけど、なるべく多くのクラブに行ってもらいたいと思うんですけど、どうしても中央と北分区分に偏ってくるわけです。お願いをする際は、12月の末にお願いをして、1月理事会で通してくださいとなります。それで2月に断られてしまうと、学生が行き場所がなくなってしまう。もしお願いがいくようでしたら、ぜひお引き受けのほどをお願いしたいと思います。そんなに大変ではありませんし、青少年交換と違いまして、会員が1人増えるというふうに思っただけければ、大丈夫だと思えます。

米山奨学生の1年間ですが、最初に会うのは4月の始業式です。奨学生、それとカウンセラー、大学関係者が呼ばれます。奨学生は奨学生で別の部屋に集まりまして、そこでオリエンテーションを受ける。そこで確約書というのを書きます。その後、奨学生としてスタートすることです。カウンセラーの方も来ますので、オリエンテーションを受けて米山奨学事業ってどんなんだろうかということを教わるわけです。例年ですと、終わった後に食事がありまして、1人1人奨学生の3分間スピーチがありますが、今年はそれができなかったというのは、大変残念です。4月のオリエンテーションが終わると、世話クラブの例会に出席します。とにかくわざわざ迎えに行くこともありません。最初はカウンセラーさんの隣に座ってもらって、例会に出る。そして、月1回奨学金を渡します。奨学金は大体の場合は会長からですが、前に出て、10万円なり、14万円を渡します。その後、1分間簡単な奨学生のスピーチをしてもらう。それが世話クラブの役目です。地区の事業では柿田川の活動もありますけど、そういうところにもぜひ参加してもらいたい。

やはりただ奨学金をもらうだけの事業ではなく、最低12回は例会に出席し、いろいろな人と接してロータリーの心を学ぶという、それが米山奨学事業の大きな目的になっているわけです。他には、9月の米山記念館、柿田川清掃作業、11月三者懇談会。いろいろな事業を行い、2月で終了です。あつという間ですが、奨学生はいろいろな場で喋りますから、プレゼンテーションがすごいみなさん上手になる。すくすく育つ姿を見ることができると思います。来年の始業式もリモートになるかもしれませんが、いずれの方法にしてもぜひその際は協力よろしくお願ひしたいと思います。

活動費としてはクラブに4万5000円。少ないかもしれませんが、0ではありませんので例会の一部には、補助できるのではないかなと思います。また、カウンセラーさんを1人選びますが、カウンセラーさんというのはロータリーとのパイプ役です。もしカウンセラーになりましたら、ぜひ横でお世話をしあげてください。人によっては、自分の仕事場を見せに行ったりとか、他の地区に紹介して喋らせたりとか、いろいろな面倒を見ている人がいます。人によってはその後ずっと奨学生が終わった期間でもお付き合いしている人もいますし、日本のお母さん、お父さんと言っている場合もあります。奨学生が決まりましたら、この人にはこの人がいいのかなというような、そのような基準で選んでいただければいいと思います。今年度から委託契約として、奨学会と、地区ガバナーが引き受けの契約をします。特にこれによって縛りがあるとか、そういうのではないのです。ただ書類上の問題でそういう形になっております。その契約の覚書には、クラブとしては、例会への奨学生の招待、奨学金支給、カウンセラーの専任、ケア等を行うことと記載されています。また、カウンセラーの方にレポートを2回書いてもらいます。他に、奨学世話クラブの4万5000円の管理と、奨学金を受け取りましたよという領収書を集めることと、その他卓話になるべくやらせるようにしてください。それから、米山月間寄付の増進。こういうようなことが、これは業務委託に関する覚書が書いてあります。

最後に感想を聞きますが、“母国と日本の架け橋になりたい”、“とても良い経験だった”、“奉仕の精神が分かった”などをよく聞きます。他にも、“さまざまな国から来た若者同士が川の中で1つの作業に取り組んだことが良い経験だった”と。こういう経験が将来平和に繋がってくると感じました。ぜひ丸の内ロータリークラブでもご引受のほど、よろしく願いいたします。どうも今日はありがとうございました。

◆作成：今井

◆別PDF：高橋様作成データ